

学校だより

令和4年度 第13号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和5年3月22日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

「感謝」と「決意」を表しながら締め括った3月

校長 藤田 忠久

WBCでのスーパースター大谷翔平選手をはじめとする日本人メジャーリーガーの活躍を中心に、久しぶりの野球人気で日本中が盛り上がりを見せています。また、将棋界でも藤井聡太棋士の史上最年少による六冠達成を果たす活躍があり、夢中になれることや得意なことを見つけた若者の活躍が、本当に輝いています。そんな中、いよいよ令和4年度が幕を閉じようとしています。1月からの後期後半は「感謝」と「決意」を姿で示そうと取り組んできました。特に3月は、巣立ち行く6年生はもちろんのこと、どの学年も「気持ちよく1年間を締め括ろう」と意識して生活をしました。

6年生は「卒業プロジェクト」の一環で、6年生から在校生（後輩達）に「倒せるものなら倒してみろ!」という挑戦状を渡し、1週目は「ドッジボール」、2週目は長縄「8の字跳び」の対決を行いました。ドッジボール対決では、ハンデを生かして唯一2年1組が一矢を報いましたが、最終的には6年生の9勝1敗という結果となりました。

「長縄対決」も6年生の全勝となったのですが、最後に急遽5、6年の選抜メンバー同士の対決もあり、高学年の面目躍如となる姿を見せてくれ、この取組に花を添えていました。



4年生は校舎内全体を使って、他学年を招いて園芸委員会主催の「クイズラリー」を行いました。クイズを見つけて答えながら塗り絵を行う活動にとっても大勢の子が参加し、大変盛り上がりました。



3年生は「岐阜小学校3年生の伝統となっている『あいさつキャノン』に参加しませんか?」と2年生を誘い、運動場の真ん中から登校してくる子たちに「おはようございます!」というキャノン砲を2、3年生が合同で浴びせる様子が見られるようになりました。大掃除には、全

校のみんなが一生涯懸命取り組んでいたのですが、大掃除後の1年生の教室では、カッコいい2年生になるための「パワーアップだいさくせん」の振り返りをしていました。さすがに「静かに掃除」は難しかったようですが、「静かに給食」や「ぼかぼか言動」はみんなできた!と喜び合っていました。

16日には「6年生ありがとうの会」第2弾を兼ねた「なかよし(班)ありがとうの会」を行いました。各教室に分かれた「なかよしグループ」ごとの全体会だけでなく、6年生一人一人がリーダーを務める「なかよし小班」での1~5年生一人一人からの感謝のコメントが伝えられ、「メッセージカード集」が6年生に贈られました。会の途中や会の終了後に、メッセージを読み耽る6年生の姿がとても印象的でした。また、この会での5年生の活躍ぶりに、とても頼もしさを感じました。



最後になりましたが、with コロナの令和4年度も「成長を実感する学校」に迫ることができたと思っています。学校経営や教育活動に多大なご理解とご協力賜り、本当にありがとうございました。

学校だより

令和4年度 第12号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和5年2月28日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

「発表・発信」「奉仕・貢献」の積み重ねで「成長を実感」！

校長 藤田 忠久

2月25日（土）のリモート授業参観では「ふるさと学習」を中心に、1、2年生の生活科、3～6年生の総合的な学習の時間の「学習（成果）発表会」という形で、子どもたちが個人やグループでみんなの前で発表する様子を、ご覧いただいただけのことと思います。お子さんの頑張りを大いに認めて誉めてやって欲しいと思います。また、感想やご意見も聞かせていただけると嬉しいです。

さて、昨年度の「博報賞・文部科学大臣賞」を受賞した本校の実践は「『ふるさと大好き』岐阜小児童の発表・提案」という内容です。応募の際には、岐阜市教育委員会から「伝統となってきた『ふるさとのよさをまとめて発表する』活動は、学校や地域の中だけにとどまらず、国交省主催の防災シンポジウムで発表したり、市役所跡地活用について市長に直接提案をしたり、自分たちの考えた『長良川観光』プランの実現に向けて提案したりするなどの活動へと発展してきている。これらの活動は地域の活性化だけでなく、地域創造の原動力になるものと考え、岐阜小学校を推薦する。」という推薦理由が付けられました。新型コロナの影響で、校外に向けた発表や提案は少し停滞してしまった印象は拭えないのですが、アウトプットの活動は6年間を通して積み上げていこうと思っています。例えば1年生は、2月だけでも「児童集会で『昔遊び』の紹介」「（3年ぶりの）『新入生との交流』で学校生活紹介」「リモート参観『できるよになったこと』発表」「『6年生ありがとうの会』での掃除の感謝を伝える練習」と、一人一人が自分の言葉や動きで発表する機会がありました。こうした取組を、どの学年でも積み重ねていくことで「思考・判断・表現」の力が高まり、自信や誇りに繋がっていくものと考えます。タブレット端末を活用したプレゼン能力も、学年が上がっていくほど、高まっていくことを実感しています。



また、本校では児童会活動や「なかよし遊び」など、全校や他学年のために奉仕する取組が高学年を中心に行われています。2月には、その締まりや引継ぎの活動も行われました。「6年生ありがとうの会」の企画・運営を受けもつ5年生は、休み時間を削って動いてくれています。6年生は「卒業プロジェクト」として、清掃活動やボランティア活動の計画や準備を進めています。大掃除後のモーニング・ボランティア等の自主的な奉仕活動も多く見られます。岐阜市には「地域で活躍したい」「地域に貢献してみたい」という“志”をもって地域の様々な社会活動に参加する中高生を応援する「地域ボランティアスタッフ（CVS）登録・表彰」制度があります。社会活動等に年間5回以上参加した人には【CVS表彰】、10回以上参加した人には【Super-CVS表彰状と記念ピンバッジ】が授与されます。実は、2006年度に岐阜市教委青少年教育室に勤務していた私は、その設立に大きく関わっていました。その後、岐阜中央中学校をはじめ多くの中学生が表彰されていることを知り、この文化が根付いたことを嬉しく思いました。with コロナの今年度、岐阜中央中学校ではCVS表彰45人、S-CVS表彰20人と他校を圧倒しているようです。その多くが、岐阜小学校の卒業生だということが分かり、卒業生の活躍を心から喜ぶとともに、CS先進校の岐阜小学校の教育活動が、卒業後の子どもたちの姿となって表れていることにも、大きな自信を感じることができました。

学校だより

令和4年度 第11号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和5年1月31日
岐阜市大工町1番地
TEL 058-265-6388

「ふるさと学習」を基盤にした共創教育！

校長 藤田 忠久

1月25日に、6年生が総合的な学習の時間の集大成となる「ふるさと大好き」の研究授業を行いました。12月にぎふ魅力づくり推進部観光コンベンション課の方から「シビックプライドの醸成」という話もあり、これまで「県外からの観光客」誘致を考えてきたことから、岐阜市民に向けた発信を考える方向にしていこうとしました。そういう意味からも、改めて「信長まつりにキムタクを」と動いてくれた伊藤英明さんの思いに触れ、岐阜まちの魅力を再考してみました。それを、まず児童一人一人がタブレット端末で「自分の1枚資料」を作成しました。研究授業では、それを持ち寄って

「自然」「歴史」「文化」「産業」「伝統」「建物」等のカテゴリー別の3～5人のグループで交流しながら「1枚プレゼン」資料を考える学習でした。お互いの「1枚資料」を尊重し、



6年間の集大成をまとめようと集中して取り組むことができました。

また、24日には長良川の川漁師で「結の舟」代表の平工頭太朗さんをお招きし、改めて5年生が「長良川の魅力」を聞かせていただき、4年生が「長良川の魚」について教えていただきながら、進級後（次年度）の総合的な学習「清流・長良川」への関心・意欲を高めました。26日には4年生が「京町とわたしたち」に取り組んできた成果として、「視覚障害者福祉について学んだこと」を担当学級に分かれて全校のみんなに発表しました。その4年生は、これまで収集～洗浄・乾燥～袋詰めをしてきた銀杏を、20日の下校時に分担して「こども110番の家」に届ける活動もしてくれました。



1月14日（土）、じゅうろくプラザで行われた岐阜市「教育公表会」の分科会D部会「シビックプライドの醸成」で、11/12に東京で発表してきたプレゼン資料を使って、岐阜小学校「ふるさと共創教育」の紹介をしました。これは、来年度から岐阜市で始まる「ぎふMIRAIs（みらい）」のモデルケースとなる実践だと自負しています。「ぎふMIRAIs（みらい）」とは、水川教育長発案の学習（岐阜市学）で、My Dreams（将来の夢や目標）、Identity（自分は自分という自己認識）、Regional Education（地域学習）、Arts（芸術・文化等）、ICT、DX（情報伝達技術、デジタルリテラシー）、s(S)DGs（持続可能な開発目標）という意味が込められています。水川教育長からは「岐阜小学校の実践が自分のイメージにかなり近い」と言われており、そんなこともあって「教育公表会」での発表となりました。指導者の中部学院大学の服部教授（先々代の岐阜小学校長）からも「岐阜小学校の実践では、相互承認、主体的・協働的な学びで対話する力や考える力、企画力・構想力、社会形成に参画する力が育つ」など、多くのお褒めの言葉をいただきました。

2月25日の土曜授業は、学年ごとに「ふるさと学習」の成果発表会のリモート参観となりますので、楽しみにしててください。なお、4年生だけは「二分の一成人式」（リモート参観）となりますので、ご了承いただきますようよろしくお願いいたします。

学校だより

令和4年度 第10号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和4年12月26日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

成長のための「親子の対話」を大切に！

校長 藤田 忠久

一昨年度と昨年度は、3密を避けて1階メディアセンターでの1学級ずつ（計13日間）の「参観日」を設けました。今年度は「with コロナの社会経済活動」が進んできたことを受け、12月6日を各学年1組とひまわり学級、13日を各学年の2組の「参観日」とさせていただきます。ここでは、授業参観後に「学級懇談会」の機会を設定し、年に一度の対面での「交流」を行っていただきました。ボランティアに来ていただいたときに限られた方との「顔合わせ」はされていたかもしれないのですが、同じ学級の保護者の方同士の「顔つなぎ」の場はとても大切なことだと感じています。こうした機会に、是非「保護者間のネットワーク」を構築していただければと思います。



今回の懇談は「家庭学習」を中心に交流していただいたのですが、職員間で共通理解を図っている主な意図（趣旨）は「家庭での学習においても『自ら進んで学ぶ力』の育成を重視」「家庭での学習の主体はあくまでも家庭（児童本人・保護者）」「教員は『宿題』に要した時間を子ども一人一人に寄り添い向き合う時間へと転換」の3つです。懇談で話題になった不安や困惑は「家庭が主体」という部分であったようです。こうした声を受け、担任から子どもたちに「授業進度や家庭学習の内容や方法を、親に相談したり報告したりすることは子どもの責任！」と指導しました。「親子の対話」を大切に、我が子を見守り、見届けることを「保護者の責務」と認識して「家庭学習」にも取り組んでいたと願っています。どうか、ご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。

学校便り9月号で「『岐阜小 宿題なし』報道の反響は小さくありません」と話題にしたのですが、その後も反響は広がり続けています。この件は、岐阜小学校運営協議会長の青山さんが「岐阜市教育振興計画」検討委員会のメンバーとして会議に出席され、本校の取組を紹介したときに取材に来ていた中日新聞の記者が「宿題をなくした」という言葉に関心を寄せ、校長や学校への取材を重ねて社会面に記事を掲載したことで、中部地方に広く知れ渡ったというのが事の次第です。学校HPでも紹介させていただいた「メーテレ」や「東洋経済オンライン」での報道、県外小学校の研究発表会への「児童のオンライン参加」に加え、県内の校長先生や県外の教務主任が「話を聞きたい」と来校されたり、日本経済新聞の記者が東京から取材に来たりもしています。「地域や家庭の教育力の高い岐阜小だからできるのでは？」という声も耳にするのですが、「教員の働き方」だけでなく「大人の役割」を論ずる意味でも「できるところからでも始める」必要性を感じています。

明日（27日）からは、令和4年を締め括って新たな年を迎える「冬休み」が始まります。岐阜小学校の「冬休み」のテーマは「〇〇家の年末年始のくらしを味わおう」です。「家族と豊かな時間を共有（ゲーム・動画サイト依存からの脱却）して居場所を確認するとともに心身のリフレッシュを図ること」「冬の友を十二分に活用しながら学習は無理なく選択的に行うこと」「新型コロナウイルス感染症の感染予防の徹底に十分に努めること」を意識して欲しいと思います。年明けの岐阜小学校も「対話と協働」によって「成長を実感」できるようにしていきたいと思っております。

学校だより

令和4年度 第9号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和4年11月30日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

「ふるさと共創教育」実りの秋を自信に！

校長 藤田 忠久

11月には、1年生「校外学習（名和昆虫博物館&岐阜公園）」「給食試食会」、2年生「校外学習（もっとなかよし まちたんけん）」、3年生「研究授業（雪洞探偵団・セールス団）」「校外学習（岐阜中消防署）」「校外学習（岐阜中警察署）」、4年生「社会見学（美濃市）」「银杏の皮むき・洗浄」「10歳の誓い（二分の一成人式）講話」、5年生「校外学習（鶴匠宅での鶴匠講話）」「校外学習（自動運転バス乗車体験）」、6年生「社会見学（明治村）」「狂俳教室」「茶の湯体験」、…それぞれの学年で、非日常の直接体験が続き、子供たちにとって大変貴重な“学び”や“成長”の機会が多くありました。

それに加えて12日（土）には、岐阜小CS最大のイベント「ふれあいフェスタ」を、3年ぶりに「ふるさとウォーク」という形で開催することができました。私自身は、東京出張（詳細は後述）で不在だったのですが、当日にも途中経過を確認したり「無事終了！」の報告を受けたりしながら、振替休業日には職員一人一人による「振り返り」「撮影した写真」、子供たちにいただいた「保護者や地域の方々からのメッセージ」の、全てに目を通させていただきました。その後も、地域行事部（青少年育成市民会議、PTA等）から送っていただいたお一人お一人からの感想や反省、学び部や安全安心部の反省会記録の全てを読ませていただきました。24日（木）の実行委員会（反省会）でも参加者全員からのお声を聞かせていただきました。課題がなかったわけではないようですが、参加された子供たちも、中学生も、保護者や地域の皆さんも、学校の職員も、とても楽しく地域のことを学び、温もりに触れながら「ふるさと大好き」を実感できたことを実感しました。参加された皆さんをはじめ、このイベントを支え、見守ってくださった全ての皆様に心から感謝申し上げます。本当に、ありがとうございました。



私は「ふれあいフェスタ」当日の12日（土）の午前中、東京駅直近にある歴史的建造物でもある「日本工業倶楽部会館」という会場で、岐阜小学校の「ふるさと共創教育」の実践発表をしてきました。今年度の「博報賞」贈呈式の翌日に位置付けられた博報堂校育財団主催の勉強会（事例共有会）「創発ディスカッション～気づきの場～」第一部で、昨年度を受賞団体の代表として「基調提案」的に岐阜小学校の実践を発表したのです。ファシリテーターの先生方からは「とても恵まれた素晴らしい地域でスパイラルな好循環によって『ふるさと学習』がステップアップされている」「直接的な実体験が本物の学びとなって子供たちを成長させている」「子供たちが実践に手応えを感じ『内からこみ上げてくる笑顔』に満ちている」と絶賛していただくことができました。参加された学校や団体の皆さんからも、校区への羨望と実践に対する賞賛の声をたくさんかけていただきました。「ふれあいフェスタ」を留守にしてまでも参加した意義（価値）は十分にあったと実感しています。岐阜小学校は「教育DX」（デジタル活用）を推進しながらも、「体験（リアル）重視」は譲れないものと考え、今後も教育活動を展開していきます。

学校だより

令和4年度 第8号
岐阜市立岐阜小学校

ふるさと大好き

令和4年10月31日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

「運動会」の本気 → 「ふれあいフェスタ」謳歌へ

校長 藤田 忠久

爽やかな秋晴れの下、10月29日（土）に、令和4年度「岐阜小運動会」を無事に開催することができました。運動会は「児童一人一人が力と自信を付け、学級の凝集力を高め、感動を分かち合える学校」に向けた「体育を素材とした豊かな体験学習の場」と捉え、児童が明るく楽しく取り組むことを通して「自分大好き」「仲間大好き」「学校（ふるさと）大好き」に迫る機会と考えました。また、学校の重点である「対話」（積極的なコミュニケーションによる関わり、最適解を追求する話し合い、新たな価値を創造する練り合い）を高める取組ともしました。教員の「働き方改革」（業務改善）、「with コロナで見直す（後戻りしない）教育活動」という社会情勢を考え、「残暑（猛暑）を避ける」「前期の成績処理と個人懇談（口頭所見）の時期には取り組まない」等の理由により、岐阜小学校の「運動会」は10月末の土曜日開催することにしました。また、種目については、奇数学年「個人競技」、偶数学年「団体競技」、低・中・高の学年部「団体演技」、なかよしグループを活用した全校児童による「児童会種目」、低・高別「選手リレー」に限定し、午前中に「閉会式」「解団式」「後片付け」が終わるようにしました。応援合戦（応援合戦）はなくし、赤・白の「団リーダー」として自団の勝利を目指して競技中の応援をリードするだけでなく、取組期間中から全校のみんなに積極的に声をかけながら「運動会」の成功へと導く役割を課すこととしました。2年目となる今年度は、その「団リーダー」としての意識や働きが定着し始めてきました。その成果が、競技や演技の舞台となるトラック内と団席との一体感です。時間は短縮しましたが、岐阜小学校が大切にしてきた精神は引き継ぎ、濃密な体育的行事に高まってきたと自負しています。学級 < 学年 < 学年部 < 全校と、集団が大きくなるほど成就感（充実感、満足感、達成感）は大きくなるようにも感じています。



そういう意味でも、更に集団が大きくなる学校と地域が一体となって行う行事が、11月12日（土）に控えています。それが、コミュニティ・スクール最大のイベントである「ふれあいフェスタ」です。昨年度は、子ども達だけの「なかよしグループ」で校内を回り、地域に関わるクイズなどを楽しみました。今年度は、令和元年度以来の3年ぶりとなる「ふるさとウォーク」が復活します。学校の子供達や教職員、保護者、地域のみなさんが一緒になって「自分の住んでいるふるさとが素晴らしい場所であることを子どもたちに伝えること」や「地域の大人とふれあって信頼関係を築くこと」を目的とし、子ども達が地域の皆さんと交流を深め合う大変貴重な機会となります。具体的には、岐阜小学校で行われている「なかよし活動」の「1～6年生の縦割り班（なかよしグループ）」が、保護者、中学生、地域の方と『家族』と呼ぶグループを作り、一緒に地域を歩いて巡る活動となります。今年度は岐阜小学校を出発後、みんなの森メディアコスモス、岐阜市役所新庁舎、美江寺公園を目指して歩き、その道中にもポイントが用意されて、仲良くふれあいながらクイズや体験などを通して楽しく学んでいくこととなります。ゴールは岐阜中央中学校で、そこが閉会式の会場となります。リーダーとしての6年生とサブリーダーの5年生がイベントの成功に貢献し、フォロワーの3、4年生は『家族』の中でしっかり協力することができると思います。そうすることで、1、2年生が楽しく参加することに繋がっていきます。子ども達の成長を楽しみにしたいと思います。是非、実際にその様子を見つけていただきたいと思います。